

〈特集〉教育会 夏の研修会

今年度は、新型コロナウイルス感染症の諏訪圏域の警戒レベルが急激に上がったことにより、開催方法が変更になったり中止になったりした研修が多くありました。急激な感染拡大でやむを得なかったこととはいえ、とても残念な思いです。しかしながら、熱心な活動が展開された委員会や研究会もあります。その成果をご報告いたします。

なお、各講座の詳細につきましては、諏訪教育会HP (<http://www.suwa-k.or.jp/>) からご覧いただくことができます。

○ 諏訪教育会研究調査委員会による研修会

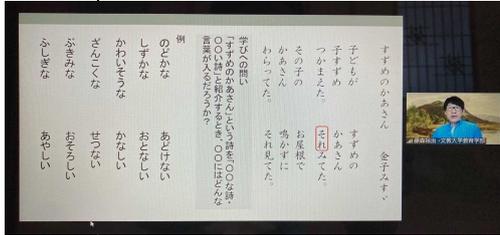
判断基準（レベル4以下で実施）により実施の可否を決めて行われました。

主催・実施期日 場所・参加者数	実施内容	成果と反省・参加者の声
教育博物館委員会 7月16日（土） 下諏訪町 八島ヶ原湿原 [参加者52名]	霧ヶ峰自然観察会 <ul style="list-style-type: none"> 霧ヶ峰の植物や鳥の観察 霧ヶ峰の地形や気象 旧御射山遺跡・高層湿原について 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の内容をクイズにしながら発表を行った。数値等のデータを更新したい。 参加した子どもによっては、3時間の観察で“ぐったり”な子もいたので、1時間コースも考えたい。 《参加者の声》 <ul style="list-style-type: none"> 観察ルートは比較的長かったけれど、様々な植物を観察できて良かった。 わかりやすいクイズもあり、子どもたちも喜んでいました。 資料は自宅に帰りゆっくり見たい。
教養委員会 7月26日（火） 諏訪教育会館 [参加者19名]	「紙工作」講座 <ul style="list-style-type: none"> 講師：鈴木 清 先生 (元富士見高原中学校長) ペーパークラフト、切り紙、立体的なカードやモビールの制作 道具の使い方や折り目の付け方 	<ul style="list-style-type: none"> 今回初めて、会場を教育会館大会議室にしたが、講師の先生の見本や資料を、ゆとりをもって展示することができたり、作業をのびのび行ったりすることができた。来年も大会議室での開催を考えたい。 《参加者の声》 <ul style="list-style-type: none"> はじめて参加させていただきました。時間を忘れて集中して取り組みました。先生の作品はレベルが高くて素晴らしかったです。修行を積んで更にしてきな作品を作ってみたいです。教室に飾って子どもたちにもPRします。
体育・保健体育委員会 7月28日（木） 諏訪南中学校体育館 [参加者16名]	体育におけるICT活用について <ul style="list-style-type: none"> 講師：藤田 育郎 先生 (信州大学 教育学部 スポーツ科学教育 准教授) ICT活用の背景や留意点 実技演習で使用するアプリの説明 実技演習 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が課題として取り上げているICT機器の活用をテーマに据えたことで、今後の実践にいかしていくことができる有意義な研修になった。 児童が使用している端末にアプリをインストールする必要がある。 《参加者の声》 <ul style="list-style-type: none"> アプリなどを使った新しい学習方法（便利なツール）を知ることができ、これからの自分自身の授業にICTを活用した実践を取り入れたいと思った。 実技を行いながらアプリを使うことができ、学習の中にどのようにいかしていくとよいかイメージを持つことができた。

○ 研究会による研修会

研究会それぞれの判断により実施されました。

<p>諏訪国語教育学会 8月2日(火) オンライン実施 [参加者13名]</p>	<p>夏期研修会 ・講師：藤森 裕治 先生 (文教大学教育学部教授) ・演題：子どもたちが自ら考える 国語の授業づくり ・模擬授業 ・講義</p>	<p>・藤森先生は国の国語教育の中核で活躍されている先生であり、最先端の話題についてお話を聞きすることができる。来年度こそは直接お会いしての研修を行いたいという声が多い。来年度も継続の方向で考えたい。</p> <p>《参加者の声》 ・模擬授業が非常に面白かった。参加しながら「頭を使う問い」とはこういうものかと思った。焦点化された入口から多様な考えが生まれて、大きな学びにつながっていくのを感じ、自分が授業をしている50分間にもっとやりようがあるはずだと強く実感した。</p>
<p>諏訪社会科教育研究会 8月2日(火) 諏訪教育会館 [参加者15名]</p>	<p>授業構想検討会 ・講師：関 雅一 先生 (坂本養川堰研究会解説員) (臨地研修は中止)</p>	<p>・午前中の研修を中止にしましたが、「臨地研修以外のことも考えていただいて、一日の研修にできないか。」というご意見をいただきました。中止となった場合も考え、来年度は別案を考えることも計画に入れていくことを引き継いでいきます。</p> <p>《参加者の声》 ・同じ社会科を専門とする先生方と1つの授業についていろんな意見を出し合って考えるという活動がなかなかできなかったのですが、今日はそれができたことが良かったです。自分自身の見方や考え方が広がる気がしました。</p>
<p>諏訪理科研究会 8月3日(水) 八ヶ岳西岳と その周辺 [参加者15名]</p>	<p>第9回諏訪自然学 ・講師：白鳥 保美 先生 (元中洲小学校長) ・南八ヶ岳周辺の植物・動物・ 気象・地形について学ぶ。</p>	<p>・諏訪自然学も岡谷の横河川から始めて9回続けてきた。夏期休業中の諏訪理研自然研究部の中心行事としてしっかり定着し、学びの場となっていてよい。</p> <p>・夏休みに子どもたちを集めて、一緒に歩いたり、講座を開いたりすることも検討する余地がある。より多くの人に参加してもらえる講座のあり方や、子どもたちの授業の役に立つ研修のあり方についても考えていきたい。</p> <p>《参加者の声》 ・八ヶ岳の西岳(2398m)の頂上付近には、イブキジャコウソウやミヤマコゴメグサなどの高山植物の咲くお花畑もあり、天気にも恵まれてよい登山になった。</p>
<p>諏訪道徳教育学会 8月4日(木) 諏訪教育会館 [参加者11名]</p>	<p>夏期研修会 ・講師：丸山 和夫 先生 (元長野県道徳教育学会会長) ・道徳の授業づくり ・講演 演題：子どもと共に歩む 道徳の学習～教科 道徳の困りごとにお答えします～</p>	<p>・研修会を行うにあたって、授業内容に伴うアンケートを実施した際、道徳の授業作りや評価に関わることなど、多くのニーズがあることがわかった。そのニーズに応え、多くの先生方に実践に生きる研修の場の提供ができるように学会の取り組みを更に検討していく。</p> <p>《参加者の声》 ・具体的な授業実践から、子どもの考えを一度すべて受容する大切さ、心の弱さを認めつつ教師がそこに踏み込む勇気、見方や考え方の広がりや変容をみとる姿勢などを学ぶことができた。</p>



<p>道元と教育実践を語る会 8月4日(木) 瑞雲寺(富士見町) [参加者8名]</p> 	<p>読み合わせ会・講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み合わせ会「正法眼蔵随聞記」 ・実践交流 ・講演会 演題：日々の響きの中から 講師：小松 睦示 先生 (元富士見町教育長) ・座禅会と住職による法話： 瑞雲寺住職 根田 泰聖 先生 	<ul style="list-style-type: none"> ・住職様による法話と座禅会。この会のために、お話を準備していただき教育の現場につながる本質的なお話をお聞きすることができた。また、座ることで自己とじっくりと向き合う心静かな時間を持つことで2学期からの活力を得ることもでき大変充実した会になった。 <p>《参加者の声》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと自分のことを考える時間を得ることができた。「響き合う」ということは方法でも結果でもなく、奥にひそむ過程が大事なんだろうなあと考えた。物事に真面目に向き合うことが大事だと思う。小松先生ご住職のお話を聞くことができとても有意義だった。坐禅も作法に則りしっかりと行うことができよかった。コロナ禍であっても、みんなで集まって研修会ができたことはとてもよかったです。
<p>算数数学教育研究会 8月8日(月) 9日(火) オンライン実施 [参加者40名] (諏訪教育会算数 数学委員会 共催)</p> 	<p>夏期研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県大会レポート審議 ・単元構想・授業づくり ・模擬授業(小学校、中学校) ・ICTを利活用した「指導と評価をつなぐ実践」紹介 ・講演会 講師：永田潤一郎 先生 (文教大学教育学部教授) 演題：算数・数学科における指導と評価の一定化に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数でグループを作って意見交換をする時間を多くとり、参加者が主体的に研修を進めることができた。また、小学6年の模擬授業を提供してもらい、児童の立場になって学び合うことができた。 <p>《参加者の声》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のふり返りは、次の授業に生かしたり、個々の学びの改善に生かしたりしたが、成績には生かせなかった。しかし、『活かすための評価』と、『残すための評価』とは別だ。』というお話を聞いて、自分の中で曖昧だったことがはっきりして良かった。「指導していなければ評価はできない。」というお話から、「指導」の大切さを改めて感じた。どの教科にもつながる部分は自校でも伝えたい。
<p>諏訪哲学会 8月20日(土) オンライン実施 [参加者8名]</p>	<p>夏期研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイデガー著「技術とは何だろう」の読み合わせ(参禅研修は中止) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本来は、会員が参集して、座禅をして気持ちを落ち着かせてから読み合わせをするスタイルが望ましいが、コロナ感染防止のため今回はやむを得ず断念した。来年は本来の内容で開催することが望まれる。 <p>《参加者の声》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み合わせ当番になっている先生の詳しい資料と説明により、少し難しい哲学書が少しずつ理解できた。 ・教職員ばかりでなく、一般の会員の方にも参加してもらえてよかった。
<p>島木赤彦研究会 9月3日(土) 赤彦記念館 [参加者31名]</p>	<p>島木赤彦文学賞授賞式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島木赤彦文学賞授賞式 ・島木赤彦文学新人賞授賞式 (講演会・情報交換会は中止) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染第7波の影響を考慮して、従来通りの研究大会を実施することができなくて残念だった。 ・東京からわざわざ来ていただいた受賞者の鮫島氏の講演会を実施できず、貴重な研修の機会が失われたのは残念だった。 <p>《参加者の声》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者を限定しての授賞式だったが、こぢんまりとした授賞式だった。 ・予定されていた鮫島先生の講演会が中止になったのは残念だった。